

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
水稲	葉いもち	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	稲こうじ病	発生量: やや少
	紋枯病	発生量: やや多	斑点米カメムシ類	発生時期: 早い 発生量: 平年並
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	キンモンホソガ	発生量: やや多
	褐斑病	発生量: 多	ハダニ類	発生量: やや多
	アブラムシ類	発生量: 平年並	—	—
なし	黒星病	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
	アブラムシ類	発生量: 平年並	—	—
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量: やや多	—	—
いちご	炭疽病	発生量: やや多	—	—

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第6号の発行日は7月22日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム



ー7月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月27日～7月2日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月4日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (全般発生期※)	発生量
葉いもち	平年並 7月第3半旬(7/11～7/15)	平年並

※全般発生期:1地点25株調査により、県内で広く葉いもちが確認される時期

予報の根拠

- (1) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における発病株率及び株当たり病斑数はほぼ平年並に推移している。(±/)
- (2) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ー)
- (3) 平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±)、降水量は平年並か多く(/±～+)、日照時間は平年並か少ないと予報されている。(ー～±/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ー)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並、発病株率は平年よりやや多かった。(/±～+)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
稲こうじ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ー)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期 (第1世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類	早い (7月第3半旬:7/11～7/15)	平年並

予報の根拠

- (1) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの越冬世代成虫発生盛期は6月第3半旬であり、平年(6月第5半旬)より早かった。(ー/)
- (2) 巡回調査の結果、周辺草地におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数は平年よりやや少なかった。(/ー)
- (3) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(ー/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

・本年は田植え以降高温で経過しており、向こう1か月の平均気温も平年より高くなると予報されているため(仙台管区气象台7月4日発表)、水稻の出穂は早まることが予想される。

(2) 葉いもち、穂いもち

・7月中旬以降は予防剤(育苗用箱施用剤、水面施用剤)の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となるので特に注意する。

・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。

・穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、ほ場をよく観察し、出穂期を基準に使用時期(出穂20～10日前頃)を失ないように注意する。

・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) 紋枯病

・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。

・要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。

※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>

・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

(4) 稲こじ病

・前年に形成され土壌表面に落下した厚壁胞子が翌年の伝染源となるため、稲こじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。

・銅剤による防除は出穂20～10日前が散布適期である。

・窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

(5) 斑点米カメムシ類

・生息地である水田周辺のイネ科植物の草刈りは、水田における斑点米カメムシ類の増殖を抑えるため、7月中旬までに遅滞なく実施する。

・水稻の出穂前後の畦畔の草刈りは斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻が出穂する10日前までに行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月27日～7月2日

天候予報:仙台管区气象台7月4日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、徒長枝葉及び新梢葉における発生地点率は平年より高く、広域で発生がみられた。発病葉率は、徒長枝葉及び新梢葉ともに平年並だった。(/±～+)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)気温 20℃前後で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、寄生新梢率は平年よりやや低かった。(/ー)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害葉率は平年並だった。(/±～+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はナミハダニは低く、リンゴハダニは高かった。(—～+)
1葉当たりの寄生頭数は、ナミハダニは平年並、リンゴハダニは平年より多かった。(/ ±～+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ —～±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤については、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 褐斑病

- ・褐斑病は平均気温 20℃前後で、多雨が続いた場合に急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。

(3) 斑点落葉病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が 20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。

(4) 輪紋病

- ・果実への感染は、6月中旬から8月上旬の降雨の多い時に起こる。枝幹のいぼ皮病斑から胞子が飛散するため、枝幹部にも十分薬液がかかるよう予防防除を実施する。

(5) アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

(6)ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

(7)キンモンホソガ

- ・6月以降に発生する成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:6月27日～7月2日

天候予報:仙台管区气象台7月4日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果そう葉及び新梢葉における発生地点率及び発病葉率は、平年よりやや低かった。(/ー～±)
- (2)気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並、寄生新梢率は平年よりやや高かった。(/±～+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は、ナミハダニはやや低くリンゴハダニは平年並だった。(/ー～±)。
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が14～30日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・本県では現在までDMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)、SDHI剤(FRACコード:7)の耐性菌は確認されていないが、これらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とし、FRACコードが同じ薬剤の連用を避ける。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

(3) アブラムシ類

- ・発生の多いほ場では、他の害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4) ハダニ類

- ・薬剤によっては、寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。それらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月上旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:6月27日～7月2日

天候予報:仙台管区气象台7月4日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	—	やや多

予報の根拠

- (1)フェロモントラップ調査では、6月末まで誘殺が確認されている。(/±)
- (2)巡回調査の結果、なしの被害果は確認されなかった(りんごは未調査)。(/—)
- (3)果樹カメムシ類の活動には高温が好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)果樹カメムシ類

- ・山林に近接するほ場では被害を受けやすいので注意する。
- ・りんごやなし以外の果実も加害するので注意する。
- ・果樹カメムシ類は、春季から秋季まで長期間にわたってほ場に飛来する。
- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果する。
- ・薬剤散布は、果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的である。
- ・有袋栽培では、果実の肥大によって袋に密着すると袋の上から吸汁されることがあるので注意する。
- ・防除情報第2号(5月27日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r06bojono02.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—8月上旬までの発生予報と防除のポイント—

潜在感染調査(サンプリング):6月12~14日(親株)

天候予報:仙台管区气象台7月4日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	—	やや多

予報の根拠

- (1) エタノール噴霧法による潜在感染調査では、潜在感染株は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ~ +)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)炭疽病

- ・高温多湿で発生しやすいため、葉の展葉間隔に合わせおおむね7日間隔で予防剤を散布する。
- ・傷口からの感染を避けるため、葉かき後には予防剤を散布する。
- ・植物体が濡れている時間が長いほど感染リスクが高くなるので、夕方には地上部が乾くようかん水時間や量を調整する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤(FRAC:11)の耐性菌が確認されているので留意する。
- ・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、頭上かん水は控え、点滴チューブを用いるなど水の跳ね返りのない方法でかん水する。
- ・発病株は感染源となるので、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り、適切に処分する。
- ・定植前に本ほの土壌消毒を行う。
- ・IPM 体系による防除は下記を参照する。
※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html
- ・定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム